

2. 子宮頸がん予防ワクチン接種の意欲度

その子宮頸がん予防ワクチンを接種したいかの是非を問いかけている。男性からみると、その予防ワクチンを接種させたいのか否かで考えをみると、「非常に接種させたい」が38.7%であり、「まあ接種させたい」33.2%と予防ワクチンを肯定的にみているのが71.9%であった。5歳階級別でみると20歳代後半が80.4%と最も高値を示していた。

女性からみると「非常に接種したい」34.1%、「まあ接種したい」37.3%、計71.4%と男性が考えているのと同じ割合であった。

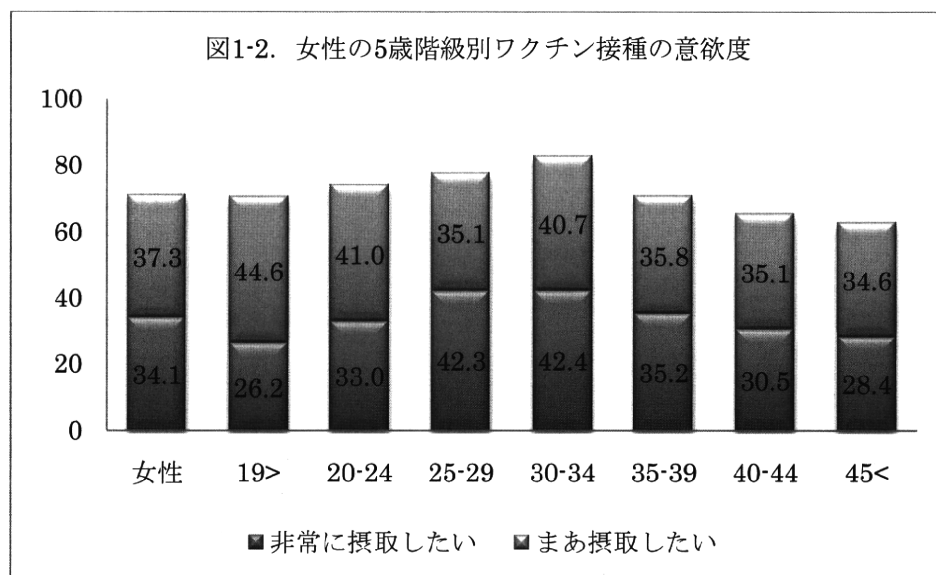
表 1-5. 子宮頸がん予防ワクチンの接種の意欲度（男性）

	非常に接種させたい		まあ接種させたい		どちらでもない		あまり接種させたくない		全く接種させたくない		無回答		総計
	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	
男性	260	38.7	223	33.2	133	19.8	23	3.4	13	1.9	19	2.8	671
16-19歳	18	29.5	24	39.3	12	19.7	3	4.9	3	4.9	1	1.6	61
20-24	17	26.2	25	38.5	16	24.6	3	4.6	3	4.6	1	1.5	65
25-29	49	45.8	37	34.6	15	14.0	4	3.7	1	0.9	1	0.9	107
30-34	39	37.9	29	28.2	21	20.4	6	5.8	3	2.9	5	4.9	103
35-39	61	45.9	38	28.6	25	18.8	2	1.5	1	0.8	6	4.5	133
40-44	31	31.6	40	40.8	23	23.5	3	3.1	1	1.0		0.0	98
45-49歳	45	43.3	30	28.8	21	20.2	2	1.9	1	1.0	5	4.8	104

表 1-6. 子宮頸がん予防ワクチンの接種の意欲度（女性）

	非常に接種したい		まあ接種したい		どちらでもない		あまり接種したくない		全く接種したくない		無回答		総計
	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	
女性	296	34.1	324	37.3	168	19.3	41	4.7	18	2.1	22	2.5	869
16-19歳	17	26.2	29	44.6	11	16.9	5	7.7	1	1.5	2	3.1	65
20-24	33	33.0	41	41.0	15	15.0	5	5.0	3	3.0	3	3.0	100
25-29	47	42.3	39	35.1	20	18.0	2	1.8	2	1.8	1	0.9	111
30-34	50	42.4	48	40.7	15	12.7	3	2.5	1	0.8	1	0.8	118
35-39	57	35.2	58	35.8	35	21.6	3	1.9	3	1.9	6	3.7	162
40-44	46	30.5	53	35.1	32	21.2	11	7.3	4	2.6	5	3.3	151
45-49歳	46	28.4	56	34.6	40	24.7	12	7.4	4	2.5	4	2.5	162
総計	556	36.1	547	35.5	301	19.5	64	4.2	31	2.0	41	2.7	1,540

子宮頸がん予防ワクチンの接種の女性における意欲度を図 1-2 に示した。これによると30歳代前半にピークを示し、若年層が30歳以降の高年齢層より高くなっていることが示されている。



未既婚別にワクチン接種の意欲度についてみたのが表 1-3 (男性) と表 1-4 (女性) である。男女共に未既婚間において差は認めなかった。

表 1-3. 子宮頸がんを予防するワクチンを接種したいと思いますか (男性)

	非常に接種 させたい		まあ接種さ せたい		どちらでも ない		あまり接種さ せたくない		全く接種さ せたくない		無回答		総計
	人数	割合 (%)	人数	割合 (%)	人数	割合 (%)	人数	割合 (%)	人数	割合 (%)	人数	割合 (%)	
男性	260	38.7	223	33.2	133	19.8	23	3.4	13	1.9	19	2.8	671
既婚	133	40.9	111	34.2	63	19.4	9	2.8	2	0.6	7	2.2	325
25歳未満			2	100.0									2
25-34歳	37	43.5	30	35.3	11	12.9	4	4.7	1	1.2	2	2.4	85
35-44歳	63	38.9	56	34.6	35	21.6	4	2.5	1	0.6	3	1.9	162
45歳以上	33	43.4	23	30.3	17	22.4	1	1.3		0.0	2	2.6	76
未婚	125	36.5	111	32.5	69	20.2	14	4.1	11	3.2	12	3.5	342
25歳未満	35	28.2	47	37.9	28	22.6	6	4.8	6	4.8	2	1.6	124
25-34歳	51	40.8	36	28.8	25	20.0	6	4.8	3	2.4	4	3.2	125
35-44歳	27	40.9	22	33.3	12	18.2	1	1.5	1	1.5	3	4.5	66
45歳以上	12	44.4	6	22.2	4	14.8	1	3.7	1	3.7	3	11.1	27
未既婚不詳	2	50.0	1	25.0	1	25.0							4
35-44歳	2	66.7			1	33.3							3
45歳以上			1	100.0									1

表 1-4. 子宮頸がんを予防するワクチンを接種したいと思いますか

	非常に接種 したい		まあ接種し たい		どちらでも ない		あまり接種 したくない		全く接種し たくない		無回答		総計
女性	296	34.1	324	37.3	168	19.3	41	4.7	18	2.1	22	2.5	869
既婚	163	33.6	185	38.1	96	19.8	18	3.7	12	2.5	11	2.3	485
25歳未満	3	21.4	6	42.9	4	28.6	1	7.1					14
25-34歳	51	43.2	45	38.1	17	14.4	2	1.7	2	1.7	1	0.8	118
35-44歳	76	34.1	85	38.1	44	19.7	6	2.7	6	2.7	6	2.7	223
45歳以上	33	25.4	49	37.7	31	23.8	9	6.9	4	3.1	4	3.1	130
未婚	132	35.0	138	36.6	69	18.3	23	6.1	5	1.3	10	2.7	377
25歳未満	47	31.5	64	43.0	21	14.1	9	6.0	3	2.0	5	3.4	149
25-34歳	45	41.7	41	38.0	17	15.7	3	2.8	1	0.9	1	0.9	108
35-44歳	27	30.3	26	29.2	23	25.8	8	9.0	1	1.1	4	4.5	89
45歳以上	13	41.9	7	22.6	8	25.8	3	9.7					31
未既婚不詳	1	14.3	1	14.3	3	42.9			1	14.3	1	14.3	7
25歳未満					1	50.0			1	50.0			2
25-34歳	1	33.3	1	33.3	1	33.3							3
35-44歳											1	100.0	1
45歳以上					1	100.0							1
総計	556	36.1	547	35.5	301	19.5	64	4.2	31	2.0	41	2.7	1,540

3. 子宮がん予防ワクチンについての小括

1. 子宮頸がん予防ワクチンについて

子宮頸がん予防ワクチンの周知度は、男性よりも女性の方が高く 35 歳を過ぎると 9 割近くの者が知っていた。年齢と共に身近ながんの問題として捉えるようになってきていることの表れと考える。そこには情報収集の豊富さもかかわっているのではないかとも思われる。

2. 子宮頸がん予防ワクチン接種の意欲度

頸癌予防の接種ワクチンを実際に摂取するか否かについてみると、20 歳前半は 74.0% であったのが、20 歳後半 77.4%、そして 30 歳前半 83.1% と最大値となり、30 歳後半は 71.0% と低値を示し、以降接種の意欲度は下がっている。このことは自らの生活設計とがん年齢ということが関わっているのかもしれない。

第Ⅸ章：人工妊娠中絶について

1. 人工妊娠中絶の是非について

人工妊娠中絶に対する捉え方として問いかけている。男性は「認める」が 13.6%、「条件を満たすなら認める」51.7%と容認するのが 65.3%であり、未既婚別でみると既婚の容認は 72.3%に対し未婚 58.8%と 13.5 ポイント未婚が低く両者間に有意差($p<0.001$)を認めた。中絶を容認しないのが既婚 3.7%に対し未婚 11.4%と有意($p<0.001$)に高値を示していた。

表 1-1. 人工妊娠中絶の是非

	認める		条件を満たすなら		認めない		どちらともいえない		この中にな		無回答		総計
	数	割合	数	割合	数	割合	数	割合	数	割合	数	割合	
男性	91	13.6	347	51.7	51	7.6	153	22.8	20	3.0	9	1.3	671
既婚	49	15.1	186	57.2	12	3.7	67	20.6	8	2.5	3	0.9	325
25歳未満			1	50.0					1	50.0			2
25-34歳	13	15.3	46	54.1	7	8.2	17	20.0	2	2.4			85
35-44歳	26	16.0	95	58.6	4	2.5	34	21.0	2	1.2	1	0.6	162
45歳以上	10	13.2	44	57.9	1	1.3	16	21.1	3	3.9	2	2.6	76
未婚	42	12.3	159	46.5	39	11.4	85	24.9	12	3.5	5	1.5	342
25歳未満	15	12.1	59	47.6	16	12.9	28	22.6	5	4.0	1	0.8	124
25-34歳	16	12.8	56	44.8	13	10.4	35	28.0	4	3.2	1	0.8	125
35-44歳	6	9.1	31	47.0	8	12.1	18	27.3	2	3.0	1	1.5	66
45歳以上	5	18.5	13	48.1	2	7.4	4	14.8	1	3.7	2	7.4	27
未既婚不詳			2	50.0			1	25.0			1	25.0	4
35-44歳			1	33.3			1	33.3			1	33.3	3
45歳以上			1	100.0									1

女性では「認める」11.4%、「条件を満たすなら認める」59.3%、合わせ容認が 70.7%と男性に比べ 5.4 ポイント上回っており、女性の方に有意($p<0.05$)に高値であることが示された。「認めない」というのが女性で低値で有意差を認めた。

未既婚別では、既婚の容認が 73.8%に対し未婚 67.4%と男性同様未婚が低値で有意差($p<0.05$)を認めた。しかしながら、「認めない」とするものは既婚 4.3%に対し未婚 5.0%であり、この間には有意差は認めなかった。

表 1-2. 人工妊娠中絶の是非

	認める		条件を満たすなら		認めない		どちらとも いえない		この中にな い		無回答		総計
	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	
女性	99	11.4	515	59.3	40	4.6	194	22.3	9	1.0	12	1.4	869
既婚	53	10.9	305	62.9	21	4.3	98	20.2	1	0.2	7	1.4	485
25歳未満			10	71.4			4	28.6					14
25-34歳	17	14.4	65	55.1	8	6.8	25	21.2			3	2.5	118
35-44歳	26	11.7	141	63.2	10	4.5	44	19.7			2	0.9	223
45歳以上	10	7.7	89	68.5	3	2.3	25	19.2	1	0.8	2	1.5	130
未婚	46	12.2	208	55.2	19	5.0	92	24.4	8	2.1	4	1.1	377
25歳未満	13	8.7	81	54.4	12	8.1	39	26.2	2	1.3	2	1.3	149
25-34歳	14	13.0	65	60.2	1	0.9	25	23.1	2	1.9	1	0.9	108
35-44歳	15	16.9	42	47.2	5	5.6	23	25.8	3	3.4	1	1.1	89
45歳以上	4	12.9	20	64.5	1	3.2	5	16.1	1	3.2		0.0	31
未既婚不詳			2	28.6			4	57.1			1	14.3	7
25歳未満			1	50.0			1	50.0					2
25-34歳			1	33.3			2	66.7					3
35-44歳											1	100.0	1
45歳以上							1	100.0					1
総計	190	12.3	862	56.0	91	5.9	347	22.5	29	1.9	21	1.4	1,540

2. 人工妊娠中絶の既往

人工妊娠中絶の既往について問いかけている。男性が相手の中絶に至らせた既往のあるのは 58 名 (8.6%)、そのうち複数回の既往があるのが 12 名 (20.7%) であった。既婚は 11.1%、複数回は 16.7%、未婚では 6.4%、複数回 27.3% であった。「一度もない」は 74.1%、既婚 73.2%、未婚 75.1% であった。「わからない」が 12.4%、既婚 12.0%、未婚 12.6% であった。

表 2-1. 人工妊娠中絶の既往

	1回		2回		3回		4回		5回以上		一度もない		わからない		無回答		総計
	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	
男性	46	6.9	8	1.2	2	0.3	1	0.1	1	0.1	497	74.1	83	12.4	33	4.9	671
既婚	30	9.2	4	1.2	1	0.3	1	0.3			238	73.2	39	12.0	12	3.7	325
25歳未満	1	50.0									1	50.0					2
25-34歳	6	7.1	1	1.2	1	1.2					71	83.5	5	5.9	1	1.2	85
35-44歳	11	6.8					1	0.6			123	75.9	20	12.3	7	4.3	162
45歳以上	12	15.8	3	3.9							43	56.6	14	18.4	4	5.3	76
未婚	16	4.7	4	1.2	1	0.3			1	0.3	257	75.1	43	12.6	20	5.8	342
25歳未満	1	0.8									108	87.1	11	8.9	4	3.2	124
25-34歳	13	10.4	1	0.8							90	72.0	15	12.0	6	4.8	125
35-44歳	1	1.5	2	3.0							44	66.7	13	19.7	6	9.1	66
45歳以上	1	3.7	1	3.7	1	3.7			1	3.7	15	55.6	4	14.8	4	14.8	27
未既婚不詳											2	50.0	1	25.0	1	25.0	4
35-44歳											1	33.3	1	33.3	1	33.3	3
45歳以上											1	100.0					1

女性の中絶の既往のあるのは135名（15.5%）であり、そのうち複数回の既往のあるものは48名（35.6%）であった。未既婚でみると既婚では102名（21.0%）に対し未婚33名（8.8%）と有意差(p<0.001)を認めた。複数回の既往は既婚で38.2%未婚27.3%と未婚が低値を示していたが有意差は認めなかった。

「一度もない」と回答したのが688名（79.2%）で、既婚74.6%に対し未婚85.4%と未婚が有意(p<0.001)に高値を示していた。「わからない」との回答は13名（1.5%）と男性より低値であった。

人工妊娠中絶の1回目の手術の年齢を聞いているが、回答のあったのは男性44名で回答率75.8%であり、その平均年齢は23.3±5.5歳、17歳から38歳であった。女性は84名、回答率62.2%と男性より低値であったが有意差は認めなかった。1回目の中絶に至った平均年齢は23.9±5.2歳であり、15歳から38歳の幅であった。

表 2-2. 人工妊娠中絶の既往

	1回		2回		3回		4回		5回以上		一度もない		わからない		無回答		総計
	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	
女性	87	10.0	35	4.0	7	0.8	3	0.3	3	0.3	688	79.2	13	1.5	33	3.8	869
既婚	63	13.0	31	6.4	6	1.2	1	0.2	1	0.2	362	74.6	5	1.0	16	3.3	485
25歳未満	2	14.3	1	7.1							11	78.6					14
25-34歳	12	10.2	11	9.3	1	0.8					89	75.4	2	1.7	3	2.5	118
35-44歳	25	11.2	13	5.8	4	1.8	1	0.4	1	0.4	168	75.3	3	1.3	8	3.6	223
45歳以上	24	18.5	6	4.6	1	0.8					94	72.3			5	3.8	130
未婚	24	6.4	4	1.1	1	0.3	2	0.5	2	0.5	322	85.4	8	2.1	14	3.7	377
25歳未満	4	2.7									138	92.6	4	2.7	3	2.0	149
25-34歳	7	6.5	1	0.9					1	0.9	96	88.9	2	1.9	1	0.9	108
35-44歳	9	10.1	2	2.2	1	1.1	2	2.2			68	76.4	1	1.1	6	6.7	89
45歳以上	4	12.9	1	3.2					1	3.2	20	64.5	1	3.2	4	12.9	31
未既婚不詳											4	57.1			3	42.9	7
25歳未満											1	50.0			1	50.0	2
25-34歳											2	66.7			1	33.3	3
35-44歳												0.0			1	100.0	1
45歳以上											1	100.0					1
総計	133	8.6	43	2.8	9	0.6	4	0.3	4	0.3	1,185	76.9	96	6.2	66	4.3	1,540

さらに中絶の既往のあるもので、ここ1年の間に中絶術の有無について問いかけている。男性では6名(10.3%)であり、既婚3名(8.3%)、未婚3名(13.6%)のうち1名が2回行っていた。

女性をみると13名(9.6%)であり、既婚が11名(10.8%)うち3名が2回行っていた。未婚は2名であった。

表 2-3. 過去 1 年間の既往

	1 回		2 回		過去 1 年間無		無回答		対象総計	総計
	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合		
男性	5	8.6	1	1.7	50	86.2	2	3.4	58	671
既婚	3	8.3			31	86.1	2	5.6	36	325
25 歳未満					1	100.0			1	2
25-34 歳	2	25.0			5	62.5	1	12.5	8	85
35-44 歳					11	91.7	1	8.3	12	162
45 歳以上	1	6.7			14	93.3			15	76
未婚	2	9.1	1	4.5	19	86.4			22	342
25 歳未満	1	100.0							1	124
25-34 歳	1	7.1	1	7.1	12	85.7			14	125
35-44 歳					3	100.0			3	66
45 歳以上					4	100.0			4	27

表 2-4. 過去 1 年間の既往

	1 回		2 回		過去 1 年間無		無回答		対象総計	総計
	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合		
女性	10	7.4	3	2.2	120	88.9	2	1.5	135	869
既婚	8	7.8	3	2.9	89	87.3	2	2.0	102	485
25 歳未満					3	100.0			3	14
25-34 歳	4	16.7	2	8.3	17	70.8	1	4.2	24	118
35-44 歳	4	9.1			39	88.6	1	2.3	44	223
45 歳以上			1	3.2	30	96.8			31	130
未婚	2	6.1			31	93.9			33	377
25 歳未満	1	25.0			3	75.0			4	149
25-34 歳					9	100.0			9	108
35-44 歳					14	100.0			14	89
45 歳以上	1	16.7			5	83.3			6	31
総計	15	7.8	4	2.1	170	88.1	4	2.1	193	1540

3. 最初の人工妊娠中絶手術を受けることを決めた理由

最初の人工妊娠中絶手術を受けることを決めた理由について問いかけている。男性が答えた理由としては「相手と結婚していないので産めない」が 31.0%、「経済的な余裕がない」 20.7%、「この中にはない」 17.2%、「育児していく自信がない」、「相手との将来を描けないから」 8.6%と続いていた。

表 3-1. 人工妊娠を決断した理由

	男性		既婚		35歳未満		35歳以上		未婚		35歳未満		35歳以上	
	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合
相手と結婚していないので産めない	18	31.0	11	30.6	2	22.2	9	33.3	7	31.8	5	33.3	2	28.6
経済的な余裕がない	12	20.7	6	16.7	3	33.3	3	11.1	6	27.3	3	20.0	3	42.9
これ以上、子どもは欲しくない	3	5.2	3	8.3			3	11.1						
身体が妊娠・出産に耐えられない	1	1.7	1	2.8			1	3.7						
自分の仕事・学業を中断したくない	3	5.2	2	5.6	2	22.2			1	4.5	1	6.7		
育児していく自信がない	5	8.6	3	8.3	1	11.1	2	7.4	2	9.1	1	6.7	1	14.3
相手が特定できないから														
相手との将来を描けないから	5	8.6	3	8.3	1	11.1	2	7.4	2	9.1	1	6.7	1	14.3
相手のことが好きではないから	1	1.7							1	4.5	1	6.7		
この中にはない	10	17.2	7	19.4			7	25.9	3	13.6	3	20.0		
対象総計	58	100.0	36	100.0	9	100.0	27	100.0	22	100.0	15	100.0	7	100.0

女性が中絶を決断した際の理由は、「相手と結婚していないので産めない」が多く 27.4%であり、次に多かったのは「この中にはない」 25.9%、「経済的な余裕がない」 13.3%、「相手との将来を描けないから」 11.9%、「自分の仕事・学業を中断したくない」 7.4%と続いていた。

表 3-2. 人工妊娠を決断した理由

	女性		既婚		35歳未満		35歳以上		未婚		35歳未満		35歳以上	
	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合
相手と結婚していないので産めない	37	27.4	29	28.4	6	22.2	23	30.7	8	24.2	3	23.1	5	25.0
経済的な余裕がない	18	13.3	15	14.7	8	29.6	7	9.3	3	9.1	2	15.4	1	5.0
これ以上、子どもは欲しくない	6	4.4	6	5.9	1	3.7	5	6.7						
身体が妊娠・出産に耐えられない	8	5.9	5	4.9			5	6.7	3	9.1			3	15.0
自分の仕事・学業を中断したくない	10	7.4	7	6.9	2	7.4	5	6.7	3	9.1	2	15.4	1	5.0
育児していく自信がない	4	3.0	2	2.0	1	3.7	1	1.3	2	6.1	2	15.4		
相手が特定できないから	1	0.7							1	3.0			1	5.0
相手との将来を描けないから	16	11.9	12	11.8	4	14.8	8	10.7	4	12.1	3	23.1	1	5.0
相手のことが好きではないから														
この中にはない	35	25.9	26	25.5	5	18.5	21	28.0	9	27.3	1	7.7	8	40.0
対象総計	135	100.0	102	100.0	27	100.0	75	100.0	33	100.0	13	100.0	20	100.0

4. 最初の人工妊娠中絶手術を受ける時の気持ち

中絶手術を受けさせたときの気持ちについて問いかけている。男性の回答は「胎児に対して申し訳ない気持ち」が 31.0%、「相手に対して申し訳ない気持ち」 27.6%、「自分を責める気持ち」 17.2%、「この中にはない」 13.8%と続いていた。

表 4-1. 最初の人工妊娠中絶手術を受ける時の気持ち

	男性		既婚		35歳未満		35歳以上		未婚		35歳未満		35歳以上	
	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合
人生において必要な選択である	4	6.9	3	8.3	2	22.2	1	3.7	1	4.5	1	6.7		
多くの女性がしてるからかわらない														
これで解放されると思った														
手術への不安	1	1.7							1	4.5	1	6.7		
自分を責める気持ち	10	17.2	5	13.9	3	33.3	2	7.4	5	22.7	4	26.7	1	14.3
胎児に対して申し訳ない気持ち	18	31.0	13	36.1	1	11.1	12	44.4	5	22.7	4	26.7	1	14.3
相手に対して申し訳ない気持ち	16	27.6	11	30.6	3	33.3	8	29.6	5	22.7	1	6.7	4	57.1
相手に対する怒り	1	1.7							1	4.5	1	6.7		
自分の親に対して申し訳ない気持ち														
この中にはない	8	13.8	4	11.1			4	14.8	4	18.2	3	20.0	1	14.3
覚えていない														
対象総数	58	100.0	36	100.0	9	100.0	27	100.0	22	100.0	15	100.0	7	100.0

中絶術を受けるときの女性の気持ちについては、「胎児に対して申し訳ない気持ち」が最も多く54.8%であり、「人生において必要な選択である」13.3%、「自分を責める気持ち」12.6%、「手術への不安」、「この中にはない」4.4%と続いていた。

表 4-2. 最初の人工妊娠中絶手術を受ける時の気持ち

	女性		既婚		35歳未満		35歳以上		未婚		35歳未満		35歳以上	
	18	13.3	14	13.7	5	18.5	9	12.0	4	12.1			4	20.0
人生において必要な選択である														
多くの女性がしてるからかわわない														
これで解放されると思った	3	2.2	3	2.9			3	4.0						
手術への不安	7	5.2	5	4.9	1	3.7	4	5.3	2	6.1	1	7.7	1	5.0
自分を責める気持ち	17	12.6	12	11.8	3	11.1	9	12.0	5	15.2	3	23.1	2	10.0
胎児に対して申し訳ない気持ち	74	54.8	59	57.8	16	59.3	43	57.3	15	45.5	7	53.8	8	40.0
相手に対して申し訳ない気持ち	1	0.7	1	1.0			1	1.3						
相手に対する怒り	4	3.0							4	12.1	1	7.7	3	15.0
自分の親に対して申し訳ない気持ち	3	2.2	1	1.0			1	1.3	2	6.1	1	7.7	1	5.0
この中にはない	6	4.4	5	4.9	1	3.7	4	5.3	1	3.0			1	5.0
覚えていない	2	1.5	2	2.0	1	3.7	1	1.3						
対象総数	135	100.0	102	100.0	27	100.0	75	100.0	33	100.0	13	100.0	20	100.0

5. 人工妊娠中絶についての小括

1. 人工妊娠中絶の是非

人工妊娠中絶を「認める」、「条件付きで認める」と容認する考えを持っているのは、男性よりも女性の方が高かったことは自らの問題として容易に理解することができる。また、未婚女性よりも既婚に高い数値を示していたことも同様に、身近に迫っているリスクを考えると当然の違いであったとも思われた。

2. 人工妊娠中絶の既往

実際の人工妊娠中絶の既往については15.5%であり、そのうち複数回の経験者は35.6%であった。この数値は未既婚別に分けてみると、当然のことながら既婚が多く21.0%で複数回は38.2%となっていたことは、前項で述べた容認者が多かったこととリスクを負って既往となった現実の表れと考える。また、最近1年のうちでの既往者は13名で11名が既婚であったことが、そのことを物語っていると考える。

3. 最初の人工妊娠中絶を受けることを決めた理由

人工妊娠中絶を受けることを決めた最も主たる理由として、男性は「結婚していないので産めない」、「経済的な余裕がない」であったが、実際に受けた女性の理由は「結婚していないので産めない」が主であった。次に多かったのが用意した9項目の選択肢の中に無いが25.9%と4分の1に認められたことは、どれにも該当しないという複雑性があったことを十分に推察することができる。

4. 最初の人工妊娠中絶を受けた時の気持ち

中絶を受けさせた男性の気持ちとしては、「胎児に申し訳ない」、「相手に申し訳ない」という項目に分散されていたが、受けた当事者としての最大の気持ちは「胎児に申し訳ない」というものであったことは、自らの胎内に宿した生命を摘むことに対する思いが強く表れていたものと推察することができる。

終章：まとめ

人工妊娠中絶の減少に向けた包括的研究の一環として「男女の生活と意識に関するアンケート調査」を隔年ごとに行ってきた。今回は2010年9月に調査を行い5回目の報告書となる。本報告書は、人工妊娠中絶の減少の一環であり、男女間の性意識、性行動、避妊や人工妊娠中絶の実態についてまとめようとしたものである。しかしながら、前回調査からセックスレス夫婦が増えており、少子化問題の大きな要因となっていることについても考

えなければならない。

I章の「調査対象者の背景」をみると、年齢分布、男女比、未既婚比、職業や家族構成等について偏りはみられることなく、今回も今まで同様に評価できるとも思われた。また、今回の調査に新しく加わった項目に「中学時代の家族形態」、「最終学歴」、「未婚者に対する結婚への意欲度」、「子どもを持つことへの意識」、「喫煙や飲酒に関する嗜好」の5項目がある。「中学時代の家族形態」では、特に多感な中学時代の家族背景をみるものだが、両親と同居、複合家族、片親家族等の構成比からみてわが国の実態と変わらない結果であった。

「最終学歴」と「喫煙や飲酒に関する嗜好」については現実の実情をよく反映していると思われた。

「結婚への意欲度」について男性は30歳後半が最も意欲度が高く、それ以降は躊躇していることが窺われ、女性は20歳後半が最も高く以降は躊躇しており、40歳後半になると否定するのが増えていた。現実に近いものと思われた。

「子どもを持つことへの意識」について、男性は約半数近くが未既婚に関係なく欲しいと思っていた。子どものない既婚者においてはその意識は強く、既婚女性も同様であったが、子どもを持つと男性以上に子どもはいらないとするのが男性以上に増えていた。このことは現実には起きているセックスレスに影響しているように思われた。

II章の「性意識について」では、性の営みの開始時期としての意識は「お互いが責任を持てるようになってから」という考えが強く、今迄の調査と大きな変化はみられなかった。しかし、性に対する関心度は、特に女性で年齢が高くなるにつれ、しかも、結婚することによって低下していたことが示されていた。これは、異性とのかかわりを持つことの面倒（煩わしい）さにも表れていた。

その意識の違いにおいて、性の営みにおいて妊娠し「産む」「産まない」は女性であり、このことから避妊法の周知度は、学生時代に授業で習得し、女性自身で講じることのできる低用量ピルや緊急避妊法については男性に比べ勝っていたことが明らかにされた。言葉をかえるなら、「望まない妊娠」を回避するための自己防衛という認識が強くなっているように思われた。

III章の「性行動について」では、男女が性の営みを持つ年代は殆ど同じであったことが明らかにされた。性的パートナーの数として、複数の関係を持っているのが男性に多かったのは子孫繁栄において遺伝子的にプログラミングされていることから領けるところであろう。しかしながら女性は性に対する意識やかかわりを煩わしいと考えるのが子どもを持った後に強く出ているようであった。

その現われが「セックスレス」の増加であり、しかもその理由として多かったのが「出産後なんとなく」を境にしていることが窺われた。

IV章の「初交について」では、過去の調査からも早くなっていることはなく 19 歳前後が平均的な年齢であったことが明らかであり、その出会いやきっかけはその世代背景に応じているようであった。初交年齢が早くなると性そのもののみを考え、相手のことを思いお互いの営みであることを軽く捉えていることが窺われた。

V章の「現在の避妊について」では、避妊に関しての話し合いが殆ど行われていない状態が窺われ、男性主導の避妊法の「コンドーム」という考えが未だ根強く残っていると思われた。避妊については女性自らが確実に避妊のできる避妊法が使われるようになってきた中において、避妊に対する自立意識も目覚める必要性があっても良い時期ではないかと考える。近々に使用できるであろう緊急避妊薬の存在がそれを後押しするものとも思うところである。

VI章の「コンドームについて」では、性感染症(STD)の視点から問いかけた設問であったが、男女とも避妊のためとして捉え、STD 予防には有効と考えてはいるものの自分とは無関係と考えているのが大半であった。しかし、男性においては STD 予防のためと捉え、未婚女性においても STD 予防のためという意識は高まってきているように思われた。

VII章の「低用量ピルについて」では、妊娠するのは女性であり自らが確実に望まない妊娠を回避できる避妊法として「低用量ピル」の存在の意義は極めて大きい。その低用量ピルに対する認識は未既婚女性とも共に高まってきていた。しかも未婚女性において顕著であったが、既婚高齢女性においては「ピルの副作用神話」が未だ根強く残っていることも明らかであり、ピルの持つ副効用の情報をいかに広く伝えるかがこれからも重要な課題といえる。

VIII章の「子宮頸がん予防ワクチンについて」では、昨年 10 月に発売された予防ワクチンについての周知度は年齢が高いものに高値を示していたが、実際のワクチンの接種を希望するのは 30 歳前半が多かった。このことは将来を見据えての願いではないかと思われた。

IX章の「人工妊娠中絶」では、中絶の既往を有するのが 15.5%であり 2 回以上の複数回はこのうちの 3 分に 1 というもので繰返す女性も多いことが示された。初回中絶の平均年齢は 23.9 歳であった。この 20-24 歳の中絶理由は結婚していないというもので、25 歳以上になると経済的理由で、10 歳代は学業を中断したくないと中絶年齢に応じて変化していたが、中絶するときの気持ちは胎児に対する思いが強く示されていた。

性の営みを持つ女性は、常に予期せぬ妊娠が側面に介在している。そのための避妊を相手任せにしていると妊娠への不安に駆られることになる。その繰返しが性に対する関心度を失わせ、異性との係わりも面倒と思いきセックスレスへと追い込むことにもなりかねない。

責任を取れる年齢になってからセックスを始めるべきという考えが多くあったなか、女性も自らが責任を取れる避妊法を持てば、性に対する退行意識も薄れてくるように思えてならない。

今回の調査で明らかにされたことは性交頻度の低下が指摘され、女性は結婚し子どもを産んでから性への関心度が失われ、異性との係わりを面倒と考えるのが多くなっていた。このことがセックスレスに繋がっている大きな要因であるものと強く示唆された。性の営みはお互いが理解しあって絆を強めお互いが歓びを分かち合う姿であることを真に理解しなければならないと考える。

一方では低用量ピルの使用が増えてきていることも事実であり、このことは女性の性と健康が、低用量ピルを介して担保されること意味し「女性のリプロダクティブヘルス/ライツ」の確立される時期であることも認識しなければならない。

平成 22 年度厚生労働科学研究費補助金（成育疾患克服等次世代育成基盤研究事業）

「望まない妊娠防止対策に関する総合的研究」

第 5 回 男女の生活と意識に関する調査

報告書

平成 23 年 3 月

はじめに

私どもは、平成 22 年の日本における、性や妊娠・避妊・中絶などに関する男女の意識と行動がいかなるものかを、さまざまな側面から分析することを目的として、平成 14 年度、16 年度、18 年度、20 年度に引き続いて「第 5 回男女の生活と意識に関する調査」を実施いたしました。

この調査は、全国の 16 歳から 49 歳の男女 3,000 人の方を対象とし、層化二段無作為抽出法という調査手法をもって実施したものであり、調査員による訪問留置回収という作業がとられました。

質問の内容を以下に列挙いたしました。

- (1) 日常生活や考え方について
- (2) 性の意識や知識について
- (3) 対象者自身の性行動について
- (4) 初めてのセックス（性交渉）について
- (5) 現在の避妊の状況について
- (6) 低用量ピルについて
- (7) 子宮頸がん予防ワクチンについて
- (8) 人工妊娠中絶について

2009 年度の保健・衛生行政業務報告によりますと、人工妊娠中絶実施件数は 1955 年の 1,170,143 件をピークに以降漸減し 223,405 件、20 歳未満の中絶実施率についても 2001 年の 13.0 から 12.8、11.9、10.5、9.4、8.7、7.8、7.6 と毎年減少を続け 7.1 となっています。平成 22 年度厚生労働科学研究費補助金（成育疾患克服等次世代育成基盤研究事業）「望まない妊娠防止対策に関する総合的研究」班では 2010 年度指定研究の一環として実施した本調査結果から、中絶減少の要因は何か、今後さらに中絶を減少させるには如何なる取り組みが有効かを検討する貴重な資料を得ることができました。今後は私たちの研究にとどまらず、本調査報告書を手にとられる皆様方に十分ご活用いただけますれば幸いです。

また、答えにくい内容が多かったにもかかわらず有効回答率が 57.2% に達したことは、調査にご協力を賜りました市区町村の関係者ならびに国民の皆様のおかげと心からお礼申し上げます。

平成 23 年 3 月

平成 22 年度厚生労働科学研究費補助金（成育疾患克服等次世代育成基盤研究事業）
「望まない妊娠防止対策に関する総合的研究」

研究代表者 順天堂大学医学部教授 竹田 省
研究分担者 (社) 日本家族計画協会家族計画研究センター所長 北村 邦夫

目 次

I 調査の概要	163
1 調査の目的	165
2 調査項目	165
3 調査対象	165
4 調査期間	165
5 調査方法	165
6 調査実施機関	165
7 回収結果	166
8 回答者の属性	166
9 この報告書を読む際の注意	170
II 調査結果の概要	171
第1章 これまでの日常生活や考え方	173
1 10歳くらいの頃までの地域における人との関わり	173
2 行動や考え方で最も影響を受けた人等	175
3 中学校の頃の家庭に対する意識	177
4 中学生の頃の親との会話	179
5 母親に対する気持ち	181
6 父親に対する気持ち	183
7 両親の離婚経験	185
8 自傷行為の経験	187
9 両親や同居者からの虐待経験	189
10 受けた虐待の種類	191
11 性に関する事柄を知るべき時期	192
第2章 性の意識や知識について	215
1 中学生のセックス（性交渉）について	215
2 セックス（性交渉）することへの関心の有無	217
3 異性と関わることの意識	219
4 避妊方法の主な情報源	221
5 現時点で適切と判断する避妊法	223
6 コンドーム利用促進策	225
7 低用量ピル（経口避妊薬）の周知	227
8 「緊急避妊法」「モーニングアフターピル」「性交後避妊」の周知	229
9 「緊急避妊法」「モーニングアフターピル」「性交後避妊」の利用経験	231
第3章 自分自身の性行動	232
1 これまでのセックス（性交渉）経験の有無	232

2	この1年間にセックス（性交渉）をした相手の人数	234
3	決まった交際相手以外でセックス（性交渉）する人数	236
4	この1ヶ月間のセックス（性交渉）回数	238
5	セックス（性交渉）に積極的になれない理由	240
第4章	初めてのセックス（性交渉）について	241
1	最初にセックス（性交渉）をした年齢	241
2	「初めてのセックス（性交渉）」のとらえ方	243
3	初めてセックス（性交渉）をした相手との知り合い方	245
4	初めてのセックス（性交渉）をするきっかけ	247
5	初めてのセックス（性交渉）をした後の気持ち	249
6	初めてのセックス（性交渉）をした相手とのセックスするまでの交際期間	251
7	初めてのセックス（性交渉）の時の避妊	253
8	初めてのセックス（性交渉）の時の避妊法	255
9	初めてのセックス（性交渉）の時に避妊しなかった理由	256
第5章	現在の避妊の状況	257
1	避妊についての相談	257
2	この1年間の避妊	259
3	避妊をせずに性交渉を行った場合の妊娠する可能性について	261
4	避妊をせずに性交渉を行うことがある理由	262
5	現在の主な避妊方法	263
6	決まった交際相手との毎回のセックス（性交渉）におけるコンドーム使用	265
7	決まった交際相手以外との毎回のセックス（性交渉）におけるコンドーム使用	266
8	コンドームを使っている最も大きな理由	267
第6章	予期しない妊娠の防止について	268
1	低用量ピル（経口避妊薬）の利用意向	268
2	低用量ピル（経口避妊薬）を使う最も大きな理由	270
3	低用量ピル（経口避妊薬）を使う目的	271
4	低用量ピル（経口避妊薬）を使う満足度	272
5	低用量ピル（経口避妊薬）を使わない最も大きな理由	273
第7章	子宮頸がん予防ワクチンについて	275
1	子宮頸がん予防ワクチンの周知	275
2	子宮頸がん予防ワクチンの接種意向	277
第8章	人工妊娠中絶について	279
1	人工妊娠中絶についての意識	279
2	人工妊娠中絶の手術を受けた経験	281